

ゆめ風埼玉 の吉田です。

事務局を置いているわらじの会の事務局長山下があちこちとメールのやり取りをしています。以下抜粋しながらレポートします。

### 山下が知り合いの皆さんにメールし、帰ってきたメールから・・・

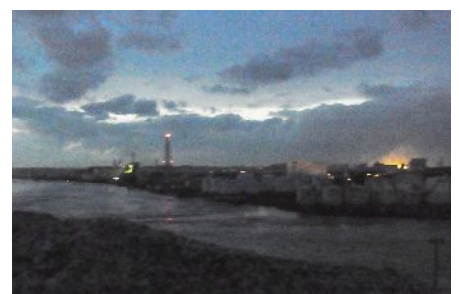
山下です。今朝（12日）1時前から、東京から4号線を埼玉へ向かって歩き北千住まで来たところで、運よく群馬に帰るタクシーに出会って乗せてもらい、6時ごろ春日部に帰りました。わらじの会メンバー、総勢5人。でも、おおぜいの人が同じように歩いていて、コンビニなどでトイレに寄ったり、飲物を買ったりしながら、休んで、また歩き出す感じは、ふだんとはちがう連帯感もまじっていました。

この数日間、生活ホームで、呼吸が止まったり、水が飲めない状態が続いている新坂きみ子さんの亡くなったお父さんが、昔、リヤカーに野菜を載せて自転車でひっぱって新宿の市場に夜運んで行った時、荒川にかかる千住大橋のところまで行くと、橋番がいてリヤカーを後押しして料金を払ったという話を思い出しながら、千住大橋で記念写真を撮りました。帰ると、診療所の棚のパイプが折れて、崩れていました。

そんな中、八戸の聴覚障害者 Oさんより被災状況を伝えるメールが届きましたので、ご紹介させていただきます。情報が得られない中、逆に情報を発信されているパワーに感服です。写真もOさん。

青森県八戸市の昨夜の状態です。（港）

津波で車が打ち上げられています。（1枚目）船がすごい勢いで何艘も沖に流されていきました。（2枚目）家？小屋？みたいなものも流されていましたが、暗くて撮影できず  
電気通じておらず、ネットにもつながらないので返信不可です。  
地震が多いところなので、皆割合冷静沈着。ただ、携帯の充電ができません。  
食料は冷蔵庫が使えないので冷凍庫のものを食べなくてはならない。  
寒すぎて悪くはないでしょう。  
不幸中の幸い。以上八戸からでした。（返信不要です。つながらないので） 八戸 O



「携帯バッテリーないため返信不要  
港は戦争の跡みたいな光景が広がっています」  
八戸 Oさんからの2報です



昨日も、4号沿い(埼玉)のコンビニは、どこも携帯バッテリーが売り切れてました。言葉を交わし

たい思いを振り切って、バッテリーを発信に使うため、「返信不要」と書いてくるOさんの思いが伝わってきます。

**越谷市の日吉孝子さん**から：NPO法人障害者の職場参加をすすめる会事務局員。脳性まひ者で、大手企業等で長年働き、3人のお子さんを育て上げ、現在は介助を入れて一人暮らしをしています。災害の中での人との出会いに言及したレポート。

「時間がたつにつれ被害の大きさが明らかになっていますが、被害がほとんどなかったと思っていた越谷でも今住んでいるマンションのエレベーターが昨日の第一震から停止状態です。管理会社に連絡してもいつ復旧するか分からないとのこと。

昨夜は群馬の子供たちや多摩に住んでいる兄や伯母にも電話連絡がとれず、子供とはかろうじてメールで互いの無事を確認し合いました。兄たちと連絡が取れたのは深夜になってから。

私はエレベーター停止で出られないのですが、今日来たヘルパーさんの話だと、この不安な状況の中で買いだめする人がいて越谷でもスーパーなどの米やパン類・麺類・缶詰などの棚がカラッポになっているとのこと。

地震当日は世一緒の当番の人達の事が心配で電話して無事を確認してホッとしましたが、後のニュースで電車が停まってしまったと知って2人が無事帰れたのが心配でした。

今日ひとつだけちょっとうれしい事がありました。今共にマンションの役員をしている隣の家のご主人がエレベーターが停止しているからと何か困ったら声をかけてと言いに来てくれました。災害は起こらないが一番ですが、何もない日常では難しい人と人を繋ぐことも確かなようです。

Oさんの勇気、すごいです」

**千葉県野田市の今井和美さん**：本名より「あんこ」という芸名のほうが通りがよく、谷中耳鼻科職員にして、わらじの会、社団法人埼玉障害者自立生活協会で事務局的な役割を担っています。

(前略) 近くのイーオンは臨時休業、マルエツは開業していたけれど、品物がほとんどなく特に懐中電燈とか肉がまるでなかったといっていました。たくさんの方が、お菓子やカップめんをたくさん袋に買っていきました。(略)昨日の市川の火事は化学薬品が燃えたので、首都圏と特に千葉県の人は雨にあたらぬようにしてください。国はまだ公表しないけれど・・・というメールがまわってきました。そのあとも、次女の所には39時間以内にまた大きな地震が来るというメールが回ってきたようです。こんな時に、雨に直接あたらぬほうがいいのは、本当にそうだと思うけど冷静に判断して、関東震災の朝鮮人の虐殺の時の様なデマに振り回されないようにと返信をしました。車のガソリンが少なくなっていたので、スタンドに行くと、「タンクにガソリンがなくなりました」と言われ、周辺のスタンドを探しましたが五軒ともしまったばかりか、もう暗くなっていました。確かに、個人のガソリンよりも、公共用に残しておかなくてはいけないなと思いました。なるべく、車を使わない移動手段を考えなければと思いました。日常生活の中に、「生死」や「不安」がこっそりと潜んでいます。戦争を知らず、「自分の死」が現実にも寄り添うことをしらなかった私たちが何かに試されている様な気がします。 あんこ」

山下です。(中略)そして、たった今も携帯がけたたましく鳴り、エリアメールで緊急地震速報が流れ、「茨城沖で地震発生。強い揺れに備えてください(気象庁)」との情報が入ってきました。こうした激しく大きな事故、事件の報道の前に、個々人の日常などあまりにもどうでもいいことのように感じさせられてしまっていますが、そこが実は落とし穴でもあると思います。(中略)この前にも書いたように、マスコミや行政の情報提供は大いに役に立つし、不可欠です。しかし、それがすべてではなく、生活に足を置いたひとりひとりの体験の交換も欠かせないと思っています。

第4信は、お二人からのメール。まず朝霞の田中さん。自閉症の娘さんは、小・中と普通学級。そして教育局交渉にも参加し、田中さんの母校でもある地元の定時制高校に学び、いま青春のただなかです。

「朝霞の田中でうちは幸いに被害もなく（書類の山が崩れましたけど）、みんな無事でした。でも、友人の中には、瓦が落ちたとのメールも雨を浴びないようにと言うメールですが、私のところにも来ました。その後、電気が止まるとのメールも両方とも、友人たちに転送したところ、返信が有りました。雨の話は、浦安市役所で根拠の無い話と言っているそうですコスモ石油のホームページでも、そんな話が出てないと電気の話は、可能性もあり得ると東京電力のホームページに載っているそうです参考までに・・・  
「うちの娘は、地震の最中に、地震止まれ〜とジャンプしてました。大きく揺れたら恐がってましたので、抱きしめてました。昨日は卒業式だったのですが、朝霞高校の壁にヒビが入り、延期に成りました。学校が休みと決まったら、娘は、お出かけしよ〜と大騒ぎ。ダメと言ったら、近所に住む爺ちゃんに電話を掛けて、迎えに来てもらって、出かけて行きました・・・無事で有ったら、直ぐに忘れてしまう・・・  
でも、今回のことで、災害時要援護者と登録しているだけじゃ安心出来ないと強く思いました。地域の中で、災害時の支援を、再度、考えていきたいです」

つぎのメールは、上福岡障害者支援センター21の竹内さんからです。竹内さんのメールの中で、マスコミの情報とネットでの情報交換についてふれられている個所、注目です。（山下）

「センター21の竹内です。センター21はその日の午後、全体会議で関係する約8割の人が公民館に集まっていた。地震後すぐに公民館員の指示に従い避難。その後、帰宅時の支援をして、解散しました。（中略）皆の帰宅確認をしたかったのですが、電話をしましたがほとんどつながらず、なかなか確認が取れなかったです。当然、自分の家族とも連絡が取れずに・・・

あちらこちらにつながらない電話をしながら、USTREAMでテレビを見ながら、twitterやfacebookで情報収集し、twitterで情報交換できる人とはそれぞれの安否確認をしていました。

ベイカーズの近所の人たちの安否確認は自転車で訪ね歩き、ついでに風邪で嫁さんの実家に預けていた子どもの安否を確認したりしていました。周辺の国道は駐車場のよう到大渋滞、それでも皆イライラすることなく、交差点内に車を進入させることなく、整然と渋滞していました。」

電車も車も動かない状態なので、ケアホームの泊まりスタッフがたどり着けないということだったので、急遽ホームの泊まり支援に入りました。

帰宅しようと特例子会社をでた障害者社員が、電車が動いていないということで、夕方に戻ってきたのでホームで泊まらせるため、一緒にホームへ向かいました。

ホームのみんなは比較的落ち着いていて、マイペースに過ごしていて安心しました。今回感じたのは、テレビやラジオといった既存のマスメディアが流す情報と、twitterやfacebookとといった、新しいメディアの情報との差が大きいこと。既存のメディアが、被害がどれだけ出ているかなどを中心に流すのとは違い、新しいメディアは、早い段階から帰宅困難者に対する店舗や公共施設の開放情報に始まり、節電の呼びかけ、今自分たちにできることなど、有益で勇気づけられる情報がたくさん流れていました。

もちろん嘘の情報も一部流れていますが、それらも多くの人の検証で、嘘であるということが時間がたつとわかってきます。使い方は人によっては難しいかもしれないですけど、そういった情報源を持っているのと持っていないのでは、不安になる度合いも相当違うのかなぁと思っています。

一番心強かったのは、twitterで流れた、仮面ライダーからのメッセージ

「ディケイドから子供たちへ」明日のオーズのTVを楽しみにしている君たちには悪いが、オーズは明日TVに出られないかもしれない。俺達仮面ライダー全員で災害を食い止めようと戦っているからだ。だから、君たちもガッカリしたりせずに、俺達を応援してくれ。よろしくな。

これを子どもも見せたら、不安な表情だったけど、少し不安がとれたらしく、ライダーが行ってくれるんだと喜んでいました。こういう情報は嘘でもよいですけどね。（後略）

取るに足りないと思われやすい、日々のくらしやしごとの中での、個々人の体験を伝え合うそんな営みから、災害の下で生きる、ひとりひとりのエネルギーを充電し合ってゆきたいと思うのです。

第5信では、まず、脳性まひで車いす使用の**大学生・吉田佐保子さん**からのメールをご紹介します。地震が小さな幸せを与えてくれたと書かれているのが、印象的です。(山下)

「吉田佐保子です。私は、脳性麻痺の車椅子ユーザーです。(普段は、簡易電動ですが、たまたま手動車椅子でした。)地震当日は、たまたま都内の自分の大学の図書室で、勉強して、友達と別れて、大学の最寄り駅(大江戸線・落合南長崎駅)の構内に上がるエレベーターを降りて、すぐ地震に遭いました。二時間以上をそのまま待っていました。JRが終日運転中止との発表。エレベーターが使えないので、手すりにつかまって、階段を降りました。そうしていると荷物を持って階段を降りてくれた男性がいたり、私の身体を持って階段を降りてくれた外国人男性がいました。駅から出て、目白駅まで歩き、都営バスに乗りました。たまたま前後のバスは、混んでいたのにそのバスは空いていて乗ることができました。運転手さんも親切でした。池袋で下車。池袋からは赤羽に行く都営バスがあったみたいですが、駅の混み様様が普通でなくて、動けず、帰宅は諦めました。

「この辺の避難所はどこですか。」と交番で訊ねました。その時も、訊ねる順番を譲ってくれる人もそうすると、「立教大学です。開放しているかどうかはわかりません。訊いてみます。」立教大が開放しているとわかり、立教大まで歩きました。立教大までの道も案内してくれた女性がいました。立教大は障害者の受け入れの良い大学。車椅子用トイレがありました。大学の大使館で、一夜を明かしました。その後、おばが迎えに来てくれ昨日の朝帰宅しました。

車椅子用席でした。車椅子用トイレや車椅子用席があり、幸いでした。もし、設備がなければ、大変でした。私は、親の送迎で大学に行っています。もし、一人だったら、大変でした。一人の場合を想定しておく必要を感じました。

今回は、関東が震源の地震ではないのにこれだけの混乱だったのだから、関東が震源の地震だったら、どうなっていたのでしょうか。私は、地震に遭って帰宅困難者になりましたが、見知らぬ人の優しさがとても嬉しかったです。普段は、街を歩けば悪いことばかりに目がいてしまいますが、地震が私に小さな幸せを教えてくださいました。」

第5信として、もう一人、**京都の開業医・永原宏道さん**のメールを紹介します。2度のメールをつなげて貼り付けます。現在は、祖父の代からの診療所を継ぎ、地域医療・福祉の拠点として手広い活動をされています。なお、この中に出てくるキーちゃんこと清田さんは故人ですが、かつて社会運動をしていたころの共通の仲間です。こんなふうに怒る人も、生活を優先させる人も、一緒にいるのが社会というものでしょう。(山下)

「永原宏道です。申し訳ないほど 京都は平穏です  
福島原子力発電所の「炉心溶融」が心配ですね。少なくともスリーマイル原発レベルとか書いてある新聞もありましたが中国政府はこの事故を教訓にはするが原発推進政策は維持すると早々と報道しているようです。エネルギーを大量に消費する生産活動、経済活動が目一杯になっている人間の経済活動の暴走を食い止めなければ明日はありません。

2信↓

通信ありがとうございます

阪神大震災のとき娘が芦屋にいてキーちゃん(清田祐一郎)の塾に通ってました。彼と組んで初日から救援活動をしたのですが手当たり次第に物資車両などの調達を命じる彼に当然日常生活を優先させて断る人が出るわけですが俺たちは今戦争をしていると言うのにあいつらはなんという事を言うんやと怒っていたのを思い出しています」

山下です。明日から計画停電が実施されると報道されています。また明日は午前中は障害者の職場参加をすすめる会の活動拠点である「世一緒（よいしょ）」に行き、午後は県庁第二庁舎の「アンテナショップ かつぽ」の会議に出て、夜は南浦和のぺんぎん広場で「どの子ども地域の公立高校へ・埼玉連絡会」の事務局会議が予定されているので、やむをえず、第6信として、送らせていただきます。

どこまで深いのか、その傷跡のはかりしれない深さへのおそれ、そして「国難」として、これまで政府を追及してきた各党がそろって休戦するという、それ自体はいいのですが、どこか国家総動員体制的な怖さを感じさせる空気…そんな深さと巨大さが目の前に迫っています。この深さと巨大さの源は、私たちみんなの日常のくらしと意識が作りだしたものです。王様を裸だと言えない私たちによって、王様は幻想のきらびやかな衣装を身にまとうのです。王様は裸だと叫んだ子どもに倣って、一人ひとりの小さな被災体験を伝え合い、静かなエンパワメントを試みませんか。

第6信のトップは、**都内在住・在勤の聴覚障害の会社員・ミルキーさん**です。Oさんのお友だちです。ミルキーさんは、11日、徒歩で帰宅しました。そして、吉田さんと同様、人と人が社会をつくっていることを実感できました。中華料理屋さんの貼り紙にやさしい気持ちにされ、コンビニをオアシスと感ずることができました。災禍の中だからこそ感じられるのかもかもしれません。

(前略)その後部屋の窓から新幹線が止まっているのが見えたりして、ワンフロア200人いる人の頭の黒いのが全く見えなくてあれ?と思ったらみんな机の下に隠れていたのです。聞こえないと机の下に隠れてしまうと情報が遮断されるようで怖かったです。隣の人に「早く机の下に隠れなさい」といわれましたが拒否して家族に安否確認メールを送っていました。なかなか返事が来ず、やきもきしましたがなんとか確認できました。

会社は皇居のお堀端です。会社を出たときから歩道は明治神宮の初詣状態でした。遅々として進まないのです。車道は大渋滞で車は全く進みません。(これが池袋まで続きました)エレベーターで閉じ込められた人を助ける消防車も全く進みません。それを幸いに車道の端を歩きました。半蔵門の交差点から新宿通りに入り、麴町警察でトイレを借りてコンビニでおにぎりを買おうと思ったらすべて売切れでした。仕方がないからおせんべいを買いました。少しはお腹にたまるかなと思って。

途中でソフトバンク・auショップがあってみんな携帯を充電していました。でもあちこちのdocomoショップは対応しきれないのでお店を閉めていました。ひどい!と思いました。途中、コンビニがあると本当にほっとしました。オアシスですよ!歩き疲れた人が一服したり立ったまま食べたりしていました。

中華料理屋では大きな紙に手書きで「トイレあります。飲料水あります。食事もできます。」と大きく張り出してありました。一人で歩いていて心細かったけれど、やさしい気持ちに心が温かくなりました。(略)

全長20キロ弱、歩いていて感じたことは初詣のようなにぎやかさで人がいっぱいいたのであまり心細くは感じなかったです。ほとんどの人はみんな一人でした。一人で黙々と歩いていました。それにつられて自然に足が前に進んだように感じました。それと、時々入ってくる下の娘や熊本のいところからの励ましのメール、熊本の83歳の叔母からの伝言「仏壇に無事に帰れるように祈っている」という言葉もとても励みになりました。普段からウォーキングで鍛えているとはいっても、気力が無ければ暗い気持ちのまま歩いていたと思います。足取りも重かったと思います。やっぱり人は社会の中で生きる生き物なんだなーと実感した一日でした。長くてすみません。」

第6信の二番手は、現地・八戸の入所施設で暮らす肢体不自由者のKさんです。入所施設の中の当事者からの発信は、ネットでも見たことがありません。これから避難所生活の問題も出てくるはずですが、もっとみんなが発信できたらと思います。（山下）

「僕は青森の施設に着てこんなすごい災害に合うとは夢にも、思わなかった。  
平成22年3月11日のお昼過ぎの事、ガガガガたんぐらぐらと揺れた、車椅子はじっとしてられなかったのです。ブレーキをかけて踏ん張っていても前後ろと動く、動く、介護師が一人僕の処に飛んできて抱きついた。Kさん大丈夫だから、大丈夫だからと言ってぼくを、抱きしめていた。施設の利用者と従業員は何かあった時の為一か所に集まり出口確保した。余震が来る旅に、手と手を取り合い励ましあっていた。いつもはそんなに仲も良くないのに不思議だなあ〜とぼくはおもった。  
此処は高台だからまだ良いんです、平地に行くともう津波の影響がすごいです。デパートや飲食店デパートは水浸しです。俺と電気水がない経験を2日間しました。自分がどんだけ電気に頼って生きているのかが良く解りました。それと水のありがたさが良く解った体験でした。テレビはだめコンポのラジオもだめ、携帯らじをだけが重宝したのです。  
携帯はバッテリーが無くなってだめ、情報源は携帯らじをだけでした。  
施設の中は外と変わりないくらい寒くジャンパーを何枚も着こんで廊下に集まっています。水が出ないのでトイレもだめ。なんとか調理場の排水を使用してようはたせましたが。  
ご飯も炊けずです。給水車が来てくれてやっと早顔ご飯が食べれました。ご飯が、こんなに美味しいんだと思った瞬間です。またこんな時が絶対にやってきます。  
遅かれ早かれ近いうちに。皆さん節水と節電には協力をお願いします。八戸はよくもあり悪くもありって感じですよー。港は津波によって大きい船から小さい船まで打ち上げられています。僕が歩いて行けたらデジカメに撮って送れるんですが残念です。施設ももういつも通りに平和になっていますが、後はご飯の食材と、おむつの配達が遅れていますね。」

第6信の最後は、大宮ばりあフリー研究会代表で、さいたま市の市議会議員、車椅子使用者の伝田ひろみさんです。第5信の吉田佐保子さんを小さいころから知っています。また、明日からの輪番停電についての不安も訴えています。そして、やはり、地震をきっかけとした出会いにもふれられています。

（前略）私の方は4月10日に行われる統一地方選に向け、ようやく動き始めたところでしたが、こうした状況の中、議員は何をしたらよいのでしょうか。地震当日は選挙事務所にいて、周りに人がいて良かったです。（中略）その日は入浴介助の日だったんですが、1時間過ぎてもヘルパーさんが来なかったので、やっぱり今日は駄目だと思っていたところに来てくれたので、揺れたらどうしようと思いながら、思いきって入りました。夜は同じ棟の最上階（14階）に住んでいる方が一人もん同志一緒にいようよね、ということで、私の部屋に泊ってくれました。2泊して今夜は大丈夫そうだねとさっき帰って行かれました。食事の支度もしてもらい、普段よりおいしいものを食べています。明日から輪番停電ということらしいのですが、停電になると、電動ベッド、昇降便座が動かない、先ず朝起きられなくなってしまいます。トイレもだめです。デンドーの充電どうしよう・・・。電気の力を借りて、かろうじて暮らしているのがかなり不安です。明日は2月議会で制定された「ノーマライゼーション条例」関係で保健福祉委員会が開かれるのですが。東電のHPを見たらさいたま市は明日6：20～停電するようなので6時に起き、トイレを済ませなければ。介助体制を考えなければなりません。  
今日は早く寝ます。原発の情報は大本営発表のようにならなければよいのですが。命にかかわる人たちに、停電の情報はどう伝えるのでしょうか。自治体からも情報提供をしなければなりません。こんなときにも経済を優先させるのでしょうか。明日早朝からの実施とは、あまりに早すぎます。」